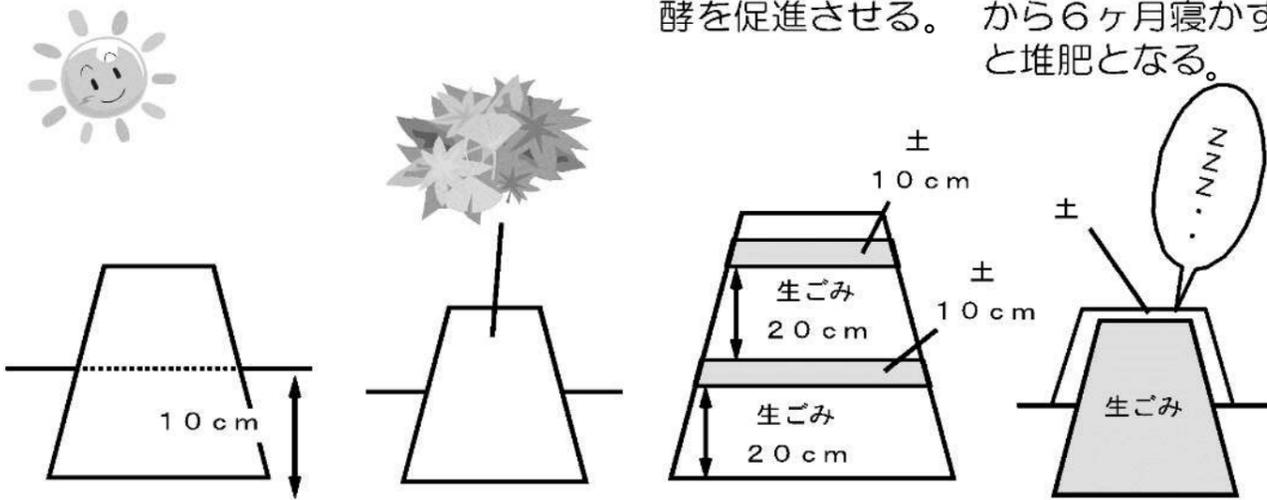


生ごみコンポスト化容器の使い方

各ご家庭で工夫を行って、堆肥化にチャレンジしてみてください！

コンポスター（地上設置型）

- ①日当たりの良い場所に穴を掘り、容器を10センチほど埋め込む。
- ②生ごみを容器に投入する際、水分が多すぎる場合は落ち葉や草などを投入しよく混ぜる。
- ③厚さ20センチほどの生ごみに対し、土を10センチの厚さでかぶせると、生ごみの発酵を促進させる。
- ④容器が一杯になったら空け(未熟なものは省く)、その上に土をかぶせて、おおむね3から6ヶ月寝かすと堆肥となる。



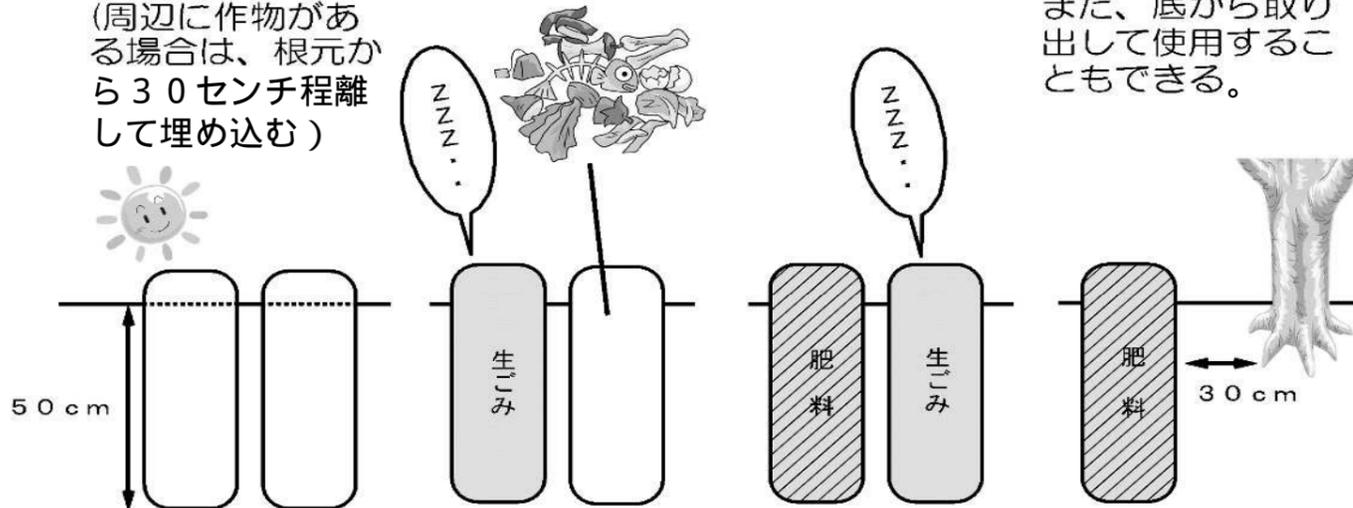
EMサポート（屋内外兼用）（対象外）

- ①十分に水切りをし、細かくちぎった生ごみを容器に入れる(卵の殻は砕く)。生ごみ1キログラムに対し、10から20グラムの薬剤を入れ、混ぜる。
- ②ふたをしっかりと閉める。ガスでふたが膨らんだらガス抜きをし、底にたまった液肥もまめに抜き取る(液肥は500から1,000倍に薄めて作物等の肥料として利用できる)。
- ③①と②を約1週間繰り返した後、約1週間熟成期間として日陰で寝かせる。
- ④③の後、プランターなら上下に土を入れてサンドイッチ状に、庭等なら作物の根元から30センチ離して穴を掘って埋め、再度寝かせる。土の力で発酵・分解させ、約1ヶ月で肥料となる。



ミラコンポ（地中埋込型）

- ①日当たりの良い場所に穴を50センチ掘り、容器2個(4個)を埋め込む。(周辺に作物がある場合は、根元から30センチ程離して埋め込む)
- ②生ごみを投入する。はじめの容器が一杯になったら、次の容器に入れる。
- ③生ごみは容器がいっぱいになってから、おおむね6ヶ月で分解され、肥料となる。
- ④そのまま土中に埋め込んでおくと周辺の作物に栄養分として吸収される。また、底から取り出して使用することもできる。



うまく堆肥（たいひ）を作るポイント ~ちょっとしたコツをご紹介~

共通のコツは「生ごみを容器に入れる前によく水切りをする」「定期的によくかき混ぜる」ことです。

●地上設置型・地中埋込型の場合

- 空気を好む菌によって生ごみを分解するため、毎日必要ありませんが、こまめに混ぜましょう。堆肥を熟成させている間も時々混ぜることで、熟成時間が短縮されます。
- 土や枯葉等を交互に混ぜると発酵しやすくなります。
- 日あたり、水はけの良い場所に設置しましょう。

●屋内外兼用型の場合

- 空気がないところを好む菌によって生ごみを分解するため、きちんとふたをしましょう。
- 液肥がたまったらこまめに抜き取り、早めに使いましょう。
- 腐りかけた生ごみを入れると、微生物が分解する前に腐敗し、臭いや虫がわく原因になります。その都度新鮮な生ごみを入れましょう。
- 生ごみを入れる度に薬剤(発酵促進剤)を入れてよく混ぜ合わせましょう。コーヒーかすや米ぬかを入れるのもおすすめです。
- できあがったぼかしあえ(注)は庭やプランターで土と交互に混ぜて、1ヶ月以上熟成させてください。ぼかしあえと土の割合は1:2です。

(注) ぼかしあえ…生ごみに薬剤(発酵促進剤)を混ぜて一次発酵してぬか漬け状態になったもの

